

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた〕「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。」 -ヨハネ 15 章-

互いに愛し合いなさい

今日の福音は先週の日曜日の続きです。ぶどうの木と枝の寓話を紹介した後、イエスは彼と離れずにいる人々に何が起こるかを説明します。

イエスは「私^があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これは私の掟である」と宣言します。確かに、掟はたくさんありますが、それらはイエスが完全に実践されたただひとつの戒め**一人々の愛**を明らかにしたものにすぎません。すべての道徳的選択、規定、法律は、私たちが神に愛を示すべき唯一の方法であるため、すべて、善にもとづくものでなければなりません。聖ヨハネは手紙の中で次のように述べています。「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません」(1 ヨハネ 4:20)。兄弟姉妹を愛する人はすべての律法を成就しています。「律法全体は、『隣人を自分のように愛しなさい』という一句に尽きるからです。」(ガラチヤ 5:14;ローマ 13:8-10)。

他の人、特に私たちが嫌いな人を愛するのは簡単ではありません。それは私たちの弱点です。しかし、イエスは私たちがその弱点を克服し、彼のようになり、謙虚で優しい人になることを望んでおられます。それが今日イエス様が私たち一人一人に与えてくださる招待状であり、そうすることで、人々は、私たちが彼の弟子であることを認めるでしょう。とても一般的で理解しにくいように見えますが、実際、それは非常に簡単です。「他の人たちに、私たちが自分にしてほしいと望んでいることをしてください」。

私たちの弱点を克服し、神の弟子としての模範になりましょう。

クラレチアン宣教会 パウロ・ニュー・イ助祭

